（様式１）

2019 年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告書提出年月日	2020年　3月　31日
研究・研修課題名	第19回CRCと臨床家試験のあり方を考える会議2019in YOKOHAMAへの参加
研究・研修組織名（所属）	臨床研究センター治験管理部門
研究・研修責任者名（所属）	宇越　郁子
研究・研修実施者名（所属）	杉原　美穂子　宇越　郁子

成果区分	□学会発表　□論文掲載　□資格取得　□認定更新　□試験合格 □単位取得　☑その他の成果（ 研修会参加 ）
該当者名(所属)	杉原　美穂子　宇越　郁子
学会名(会期・場所)、認定名等	第 19 回 CRC と臨床家試験のあり方を考える会議 2019in YOKOHAMA （2019/9/14、15　横浜市：パシフィコ横浜）
演題名・認証交付元等	
取得日・認定期間等	
診療報酬加算の有無	□加算有（　　）■加算無

目的及び方法、成果の内容

① 目　的

今回の会議のテーマ「患者を中心とした臨床試験のあり方」には、変化しつづける臨床試験に適応し、個々の背景を持つ患者に寄り添い、併せて臨床試験の品質を守るためには何が必要とされるのかに焦点を当て、臨床試験の現場での課題を共有し、理解を深め、今後の力とする機会となることが期待される。

また、新たな方向性として国内でもより良い医療・研究の実現には患者の視点を取り入れることは必須という考え方が生まれ、その実現に向けた施策が開始されている。これからの臨床試験のあり方として、患者や一般市民の視点を取込んだ臨床試験のあり方を、患者・市民の方を含めた参加者と共に考えるというコンセプトの本会議に参加し、これまでありがちな医療者側主導の意識をどのように変えるべきか、学ぶ機会とする。

②方　法

CRC（治験コーディネーター）2 名が下記会議に参加する。

第 19 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議 2019 in YOKOHAMA

主催：一般財団法人 臨床試験支援財団

会場：パシフィコ横浜（横浜市）

会期：2019 年 9 月 14 日（土）～15 日（日）

参加した CRC が、部門内の他の CRC へ得られた情報等を伝達することにより、部門全体のレベルアップを図る。

② 成　果

会議への参加により、治療が必要となった患者や家族、または周囲の人々のおかれた状況を医学的な見地だけではなく、社会的、経済的、心理的そのほかの側面からも理解し、支持していくことが重要であり、またそれが看護師 CRC の役割であることを学び、今後の治験業務をより充実したものとして遂行するために役立つものと考え臨んだ。

今回の会議のテーマ「患者を中心とした臨床試験のあり方」に興味を持って参加したが、私のイメ

ージしたものが違っていたようで、実際にはさほど患者目線に重点を置いた印象はなかった。

各発表では CRC の勤務年数に応じた各段階での教育について各施設の工夫やツールがさまざまあることを改めて知ることができた。

新人 CRC に限らず、すでに従事している私たちも他施設での工夫やツールを使用して学ぶことにより、CRC の役割、存在意義を自覚し、依頼者から信頼されるデータを集積し、参加する方々の立場に立った関わりで治療を受けることへの満足につなげられるよう、新しいことを取り入れつつ努力したいと思う。

働き方改革に沿って、毎回のように CRC の業務環境の改善を図ることをテーマとしてさまざまな議論の場が設けられているが、子育てとの両立、時短と言ったテーマは多いが、「CRC のあり方」という特殊なキャラクターである部分をどのようにするべきなのか、本質について期待されている進歩が回を重ねてもなかなか見えて来ないように感じた。

施設の規模に関わらず、多くの CRC がそれぞれの悩み、迷いや成果を共有できる場であることは意義深いことであり、特に当院 CRC は部署の規模が小さく、近隣にも同様の業務をされている方がいないため、別の視点で捉える力を享受できる貴重な場であると思う。

参加させていただきありがとうございました。